

地球を
まると
幸せに。



開発協力シンポジウム
「私たちのSDGs—国際協力と地域開発との対話」
報告書

2018年2月24日(土)

主催：広島大学大学院国際協力研究科

共催：広島県

協賛：国際協力機構中国国際センター(JICA中国)・国際開発学会広島支部

協力：外務省

2018年3月15日

国際シンポジウム「私たちのSDGs」報告書作成にあたって

広島大学大学院国際協力研究科（Graduate School for International Development and Cooperation: IDEC）は、大学の理念5原則に基づき、途上国の課題解決に取り組む人材の育成をミッションとして1994年に創設されました。それ以来、世界中から研究者と学生を集め、2000名を超える修士および博士の学位を授与してきました。2018年3月現在、計47ヶ国からの留学生を含めて、292人が学んでいます。

国際社会は、21世紀に入り、途上国の課題解決のため「ミレニアム開発目標（MDGs）」の実現に協働してきました。2015年に成果の確認を行い、一定の成果を上げたことを評価する一方で、残された課題はもはや開発途上国だけでなく、世界を挙げて取り組むべきグローバルな課題であることが確認されました。たとえば地球温暖化や資源枯渇は全地球的な取り組みが必要です。そのことは、私たちの日本社会、地域社会の在り方を考えることに結びついていることを示唆しています。そのような中、国際社会が次のターゲットに掲げたのは「持続可能な開発目標(SDGs)」です。

シンポジウムでは、このSDGsを取り上げました。国際会議で議論されていることは、理念的、抽象的に響き、ともすれば私たちには直接関係のない出来事に聞こえます。また、身の回りには多くの切実な問題があります。しかし、上にも書いたように、私たちの社会は国際社会につながっています。このつながっている感覚、ある種の連帯感こそが、今日私たちに求められることです。つまり、国際社会の抱える課題を自らに引き寄せて考えること、あるいは自分たちの課題を国際的な視点で考えること、そのような目的で、今回「私たちのSDGs」というテーマが設定されました。

そこで、第一部では国際的に活躍されている講師陣を招聘し、第二部では地元広島に拠点を置いて、国際理解や地域振興を発信するJICA中国センター、国際的に人道支援、地元では地域活性化の双方に取り組む国際NGO・ピースウィンズジャパン、また人口過疎や地域振興に取り組み、国際的な協働も取り入れている地域代表として大崎上島町の三者をお招きし、議論しました。

当日、大学関係者に加えて、高校生、大学生、一般市民など200名を超える方に参加いただきました。また、高校生が積極的に手を挙げて質問する姿に、心を打たれました。SDGsは、これからの社会を担う若者にこそ積極的に取り組んでもらいたい課題です。彼らは、まさに「私たちの」ものとしてとらえようとしていました。所期の目的が幾分でも達成できたことを心よりうれしく思います。

広島大学大学院国際協力研究科
研究科長 馬場卓也

プログラム

私たちのSDGs

- 国際協力と地域開発との対話 -

【共催】 広島県

【協賛】 国際協力機構中国国際センター (JICA 中国) ・ 国際開発学会広島支部

【協力】 外務省

第 I 部 (12:30-14:30)

開会のご挨拶

12:30-
12:50
越智光夫 (広島大学長)
増島稔 (外務省国際協力局審議官)
濱本清孝 (広島県地域政策局国際部長)

《司会》 金子慎治 (広島大学大学院国際協力研究科教授)

基調講演1

12:50-
13:30
「持続可能な開発目標—開発の新たなパラダイム」
福田パー咲子 (ニュースクール大学教授・国連開発政策委員会副議長)

13:30-13:40 質疑応答

基調講演2

13:40-
14:20
「内戦が開発に及ぼす影響—持続可能な開発目標16の必要性」
スコット・ゲイツ (オスロ国際平和研究所教授・同研究所内戦研究センター前所長)

14:20-14:30 質疑応答

14:30-14:50 休憩

第 II 部 (14:50-16:30)

パネル討論

14:50-
16:25
《モデレーター》
片柳真理 (広島大学大学院国際協力研究科教授)
《パネリスト》
馬場卓也 (広島大学大学院国際協力研究科長・教授)
池田修一 (国際協力機構中国国際センター所長)
東村康文 (NPO法人ピースウィンズ・ジャパン職員)
川本亮之 (広島県豊田郡大崎上島町総務企画課企画調整係長)
《コメンテーター》
福田パー咲子 スコット・ゲイツ

閉会のご挨拶

16:25-
16:30
馬場卓也 (広島大学大学院国際協力研究科長・教授)

登壇者プロフィール

■ 基調講演1



福田パー咲子（ニュースクール大学教授・国連開発政策委員会副議長）
開発経済学者。長年、国連開発計画及び世界銀行にて勤務。1995年より10年間、国連開発計画の『人間開発報告書』の編集長を務める。2004年より米国ニュースクール大学教授。現在、国連開発政策委員会副議長。人間開発および人権アプローチ推進の立場からグローバルな政策形成過程に携わっている。

■ 基調講演2



スコット・ゲイツ（オスロ国際平和研究所教授・前所長）
ミシガン大学にて博士号（政治学）取得。複数の大学での勤務を経て、2002年以降、10年間オスロ国際平和研究所内戦研究センターの所長を務める。現在は同研究所教授で、オスロ大学の教授職も兼任している。紛争と平和を研究テーマとし、民主主義と平和、権力分有、紛争が開発に及ぼす影響など様々な角度から研究を行っている。

■ パネル討論

馬場卓也（広島大学大学院国際協力研究科長・教授）

広島大学にて博士号（教育学）取得。数学教師や国際協力プロジェクトの数学教育専門家及びアジア・アフリカ諸国の研究者として幅広い実績を有する。2001年より広島大学大学院国際協力研究科に着任し、2016年より研究科長職に就く。授業研究、教師の職能成長、民族数学とカリキュラム開発を専門とし、開発途上国への支援や国際比較という視点から数学教育を研究している。

池田修一（国際協力機構中国国際センター所長）

1985年筑波大学大学院環境科学研究科修了、同年、JICAに入構。爾来、JICA本部では自然環境保全協力、高等教育協力、国際緊急援助等を担当。海外勤務は計13年、ビルマ（現ミャンマー）、アメリカ合衆国、ラオス、2013-2016年タイ事務所長。2016年4月より現職。

つかむら

東村康文（NPO法人ピースウィンズ・ジャパン職員）

専門は地理学（理学博士）。島根県邑南町在住。1990年からNGOでアジアでの地域開発の事業で、海外駐在と日本本部で働く。2013年地元で地域づくりと国際交流を行う団体の理事。2014年よりピースウィンズ・ジャパンの広島県神石高原町の本部事務所に勤務し、アジア事業のマネジャーを務める。

りょうじ

川本亮之（広島県豊田郡大崎上島町総務企画課企画調整係長）

1971年大崎上島（旧大崎町）生まれ。岡山の大学を卒業後（吉備国際大学）、専門紙の新聞記者を経て、1995年旧大崎町役場に採用される。企画室、教育委員会生涯学習課にて勤務。2003年、大崎町・東野町・木江町の3町が対等合併し、大崎上島町が誕生。大崎上島文化センター、教育委員会社会教育課、総務課、広島県派遣（2年間、過疎対策課、過疎・地域振興課）を経て、2012年より企画部門（企画振興課、総務企画課企画調整係）。現在に至る。

第 I 部 基調講演 1

「持続可能な開発目標－開発の新たなパラダイム」

福田パー咲子氏

(ニュースクール大学教授・国連開発政策委員会副議長)



持続可能な開発目標－開発の新たなパラダイム

ニュースクール大学教授（国際問題）
福田パー咲子

開発協力シンポジウム 「私たちの SDGs—国際協力と地域開発との対話」

広島大学 2018 年 2 月 24 日

要旨

持続可能な開発目標(SDGs)は 17 の目標と 169 のターゲットで知られているが、環境、社会、経済について持続的かつ包摂的な新しい開発ビジョンに関する合意を示すパッケージとして包括的に考える必要がある。発展途上国のみならず、すべての国に適用されるものとして野心的かつ「改革をもたらす (transformative)」課題を規定している。

SDGs の合意は重要な成果であり、概念としての開発の根本的な再定義と、国際的な政治プロジェクトとしての方向転換を反映している。国際開発は第二次世界大戦後の脱植民化の一環として現れ、20 世紀の大半においては発展途上国が追いつくことを意味し、1980 年代のネオリベリズムの台頭以降グローバル経済への統合をなした。その焦点は 1950 年代から 70 年代までの工業化から、1980 年代から 90 年代までの経済自由化へ、そしてさらにミレニアム開発目標の枠組みが採択されることにより、21 世紀の貧困削減へとシフトした。この間、世界は劇的に変化し、南北の分断はもはや国際的な経済的・政治的関係を支配するものではなくなった。開発援助は開発途上国にとって主な資金源ではなくなっている。中所得国の誕生や BRICS のような連携は、これらの国が「北」に加わらずに新たな知識および制度の源泉となることで、開発の意味を問い直している。この文脈において、SDGs は 21 世紀によりふさわしい開発の概念の再定義と新たな政治プロジェクトを示しているのである。

SDGs は多くの面でこれまでの開発の概念と異なっている。より幅広く、環境上の限界に対処し、民主主義と成長を脅威にさらす不平等の拡大を抑止し、極度の貧困を終わらせるという差し迫った必要性を一つにまとめている。SDGs は普遍性を強く主張する。すなわち、これらの課題はバングラデシュやマラウィと同様に、米国、日本またはフランスで将来重大となる。SDGs は国際開発協力を北から南への支援という性質から、全世界のパートナーシップへと変換させるのである。

The SDGs: a new development paradigm

1

SAKIKO FUKUDA-PARR
PROFESSOR OF INTERNATIONAL AFFAIRS, THE
NEW SCHOOL

SYMPOSIUM ON INTERNATIONAL
DEVELOPMENT AND COOPERATION
HIROSHIMA UNIVERSITY, 24 FEBRUARY, 2018

UN 2030 Agenda & the SDGs

2

- <http://17goals.org/>

‘An enormous diplomatic breakthrough.... and they will guide global development until 2030’

17goals.org

A commitment to an agenda that is:

- integrated
- transformative
- ambitious
- universal

What are Global Goals?

3

- Politically negotiated consensus about development priorities
 - a vision
 - a normative framework
 - not a plan
- Purpose as a tool of global governance
 - communicate and mobilize attention to neglected priorities
 - benchmarks of progress
 - coordinates stakeholders around agreed priorities

Goals and Development Paradigms

4

- Power of numbers - quantitative, simple, concrete
- Goals communicate a narrative of development through numeric indicators – ‘**knowledge effects**’
- Frames public debates about development – a tool of hegemonic power - defines important objectives in a particular way, implies certain solutions. Excludes other objectives and solutions as irrelevant, off the table of debate.

Development paradigms – a brief history

5

- 1950s – 80's: **decolonization project** - development as creating productive capacity of countries to deliver better **living standards**. ('**economic independence**')
- 1980's – 90's: **globalization project** – development as integrating into the global economy
- 2000 - 2015 – MDGs – development as ending poverty
- 2015 – **SDGs and development as 'sustainable development'**

MDGs (selected targets)

6

1. Eradicate extreme poverty and hunger (reduce by half the proportion of people <\$1 a day)
2. Achieve universal primary education (100% primary completion)
3. Promote gender equality and empower women
4. Reduce child mortality
5. Improve maternal health
6. Combat HIV/AIDS, malaria and other diseases
7. Ensure environmental sustainability
8. Develop a global partnership for development

SDGs

7

<http://17goals.org/#home>

1. End poverty in all its forms everywhere
2. End hunger, achieve food security, improve nutrition, promote sustainable agriculture
3. Healthy lives and promote well-being for all at all ages
4. Inclusive and quality education for all, lifelong learning
5. Achieve gender equality and empower women and girls
6. Access to water and sanitation for all
7. Access to affordable, sustainable and modern energy for all

8

8. Inclusive and sustainable economic growth, employment and decent work for all
9. Build resilient infrastructure, promote sustainable industrialisation, foster innovation
10. Reduce inequality within and among countries
11. Make cities inclusive, safe, resilient and sustainable
12. Sustainable consumption and production patterns
13. Take urgent action to combat climate change and its impacts

9

14. Conserve and sustainably use oceans, seas, marine resources
15. Sustainability manage forests, combat desertification, halt and reverse land degradation, halt biodiversity loss
16. Promote just, peaceful and inclusive societies
17. Revitalize global partnership for sustainable development

Contrasting Reactions to SDGs at 2015 release

10

- “Worse than useless” (*The Economist*)
- “The SDGs should stand for Senseless, Dreamy, Garbled” (*Bill Easterly*)
- “We can declare partial success in every category – which is more than we might have dared hope for in 2010 **under the ‘reign’ of the deeply inadequate MDGs.**” (*Center for Economic and Social Rights*)

From MDGs to SDGs

11

SHIFTS IN:
VISION
COMMUNITY

PURPOSE

PROCESS OF FORMULATION

SDGs – more than a list of 17 goals, 169 targets and 232 indicators

12

- An integrated agenda
- universal
 - ambitious
 - transformative
 - Means of implementation
 - Partnership
 - ‘Leave no one behind’ + inequality, human rights, social justice elements across targets.

	MDGs	SDGs
Scope	8 Goals, 60 targets	17 Goals, 169 targets, 232 indicators
Focus/vision	Poverty agenda (Income poverty, education, health, water, gender equality, environment, partnership)	Inclusive and Sustainable Development agenda (integrated and sustainable across economic, social and environmental elements – ‘Leave no one behind’)
Purpose and application	For developing countries An ‘aid agenda’ for donors to coordinate priorities of stakeholders (donors/recipients, governments and civil society, businesses)	Universal A common vision for a more sustainable and inclusive development that improves lives of all people everywhere.
Process of formulation	Closed. Led by UN SG and donor community	Open. Led by states with broad consultation

13

Push back to MDG paradigm

14

- Narrow agenda: poverty goals. Omits key global challenges (rising inequality, climate change, unemployment.....)
- **Limited relevance:** ‘minimum development goals’ for Africa and LDCs
- Not adequately transformative, lacking ambition to tackle key challenges to change the course of environmental destruction, rising inequality and exclusion, persistent poverty
- Top down process of formulation imposed by UN SG

MDG strengths as weaknesses: simple and short, quantitative, concrete

15

- **Reduced ‘development’ to basic needs. Neglect of structural causes** e.g. social determinants of health, political determinants of health inequalities....
- Off the table priorities in the MDGs: root causes of poverty and inequality – unjust institutions.....
- One size fits all targets for all countries irrespective of starting point, constraints and resources

Off the table issues in the MDGs

16

- Inequality, exclusion, discrimination, etc....
- Climate change
- Employment
- Economic growth and structural change
- Development
- National strategies
- Macroeconomic policy frameworks
- Systemic reforms in global institutions (climate change, financial institutions, Doha round, etc)
- Complexity in development, systemic obstacles

SDG Agenda: new elements

17

- Common but differentiated responsibilities
- Means of implementation
- Inequality – **stand alone goal (10), and theme across other goals; “Leave no one behind” principle**
- Governance & human rights (16)
- Environment – energy, cities, water, climate change, oceans, terrestrial ecosystems.
- Growth and infrastructure
- Technology

SDGs –stronger elements for transformative change

18

- Structure: outcomes vs. outcomes & means of implementation
- Inequality within and between countries
Goal 10 – inequality within and *between* countries
Goals 3,4,5,6,7,8 – ‘*of all*’
- Goal 16 – just institutions
- Goal 17 – Means of implementation including systemic issues
- Means of implementation or policy change under each goal addressing systemic national and global issues

Example: Transformative elements for health – some important policy priorities

19

- 3b – R & D in vaccines and medicines; access to essential medicines, affirming TRIPS flexibilities;
- 3c – health financing
- 2b – agricultural trade, e.g. export subsidies
- 2c – food commodity markets
- 1b – pro-poor and gender sensitive development strategies
- 6b – local community participation in water management

Shift in Political Economy

20

FROM DONOR AGENDA TO UNIVERSAL
AGENDA

Origins and motivation of MDGs and SDGs

21

MDGs

- Donor led creation, successor to the OECD DAC International Development Goals 1996
- Origins and motivation: donors seeking new narrative to justify development aid in post Cold-War context

SDGs

- UNCED/Rio+20 process. Integrating environment with development challenges.
- Sustainable development - Non-mainstream approach (challenge to market led model). Idea from the South.
- State led negotiations, strong role of developing countries especially BRICs and other LA countries

Competing visions and ideologies

22

- Development as a post-colonial project
 - 'donor mindset' and donor centric project
 - relevance only for developing countries
 - continue current trend (neoliberal globalization) – remedy problems created by neoliberalism
- Development as a nationally and locally driven aspiration for better future
 - universal challenges of poverty, inequality, environmental destruction
 - local solutions and nationally driven strategies
 - change course, a transformative agenda

Political economy: Origins and process of elaboration

23

- “Post 2015 agenda” 2011-2013 – UN SG organizes consultations on successor to MDG agenda
 - donor vision - poverty focus (*MDG +*)
 - UN SG organized (High Level Panel, stakeholder consultations, technocratic secretariat)
 - epistemic community – international development
- Open Working Group of the GA March 2012 – July 2014
 - - Rio+20 conference June 2012 – mandates formulation of SDGs
 - UNCED vision: economic, social and environmental sustainability
 - state led, stakeholder consultations, push back on technocratic control by SG & agencies
 - epistemic community – environment & development, justice

SDG – process and politics

24

- “Post 2015” – Technocratic, MDG 2.0 aid agenda
 - SG set up HLP of eminent persons report/Cameron, Johnson Sirleaf, Yudhoyono: multiple open consultations
 - Poverty focus but go to zero (unfinished MDG business)
 - Short list – narrow agenda, focus on outcomes (leave out global economic governance, human rights, inequality, shifting changing consumption and production patterns)
 - Champions: aid donors (DfID, Oxfam, Gates, etc.); aid academics (Sachs, SDKN....)
- Open Working Group – Political, ‘sustainable development’ agenda
 - OWG – 30 seats shared by 90: open to all states and stakeholders: innovation in UN GA negotiations. broke from entrenched UN negotiating blocks/alliances, opened up to accept new principles.
 - Push back to MDGs – narrow poverty agenda, aid agenda, closed process, donor driven and neglected voice of the global south.
 - Rio agenda of sustainable development
 - Stakeholders and agendas: civil society – interest groups, equality, global economic policies, Africa – growth: Rio – env as dev; Rio developing country agenda – CBDR, env as dev issue, MOI

Battles in formulation: ex inequality

25

- “extreme income inequality” – one of the central challenges of the 21st century
- stand alone goal?

We have already spoken about the value we see in a target on reducing the number of people living below national poverty floors, which is a critical vehicle to shrink inequality. ... We are less convinced by a standalone goal on inequality. This could lead us to a sterile debate that economists have been having for generations and that we are unlikely to resolve here. We see much greater practical potential and concrete impact in addressing inequality through goals and targets related to poverty eradication: equal access to productive and other assets; social protection floors; gender equality; elimination of discriminatory practices, policies, and laws; and job-rich and inclusive growth. These types of measures will be a much more concrete way to hard-wire real action to reduce inequalities into our agenda. (UK 2014)

- goal 10: reduce inequality within and between countries. 10 targets, 11 indicators. contains no target or indicator that would show reduction or rise in inequality within or between countries.

focus on inclusion of the poor, not reduction in concentration of wealth and income of the elite.

The ‘devil’ is in the indicators

26

- Target 8.7: forced labor, modern slavery, human trafficking, child soldiers, child labor
 - Indicator – prevalence of forced labor
- Target 3b: R/D for innovation in medicines
 - aid for innovation
- **Disaggregation essential for ‘leaving no one behind’**
 - burden for new data collection

Paradigm shift – development as sustainable development

27

- End of 20th century ‘development’ – what future of North-South development cooperation?
- Sustainable development - a challenge to neoliberal globalization, addressing inequality, poverty and environmental destruction?
- SDGs in the North?

Thank you

28

第 I 部 基調講演 2

「内戦が開発に及ぼす影響—持続可能な開発目標 16 の必要性」

スコット・ゲイツ氏

(オスロ国際平和研究所教授・同研究所内戦研究センター前所長)



内戦が開発に及ぼす影響

ー 持続可能な開発目標16の必要性 ー

スコット・ゲイツ
オスロ国際平和研究所教授・前所長



February 24, 2018

Hiroshima Prefecture

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



平和と公正を
すべての人に

SDG 16

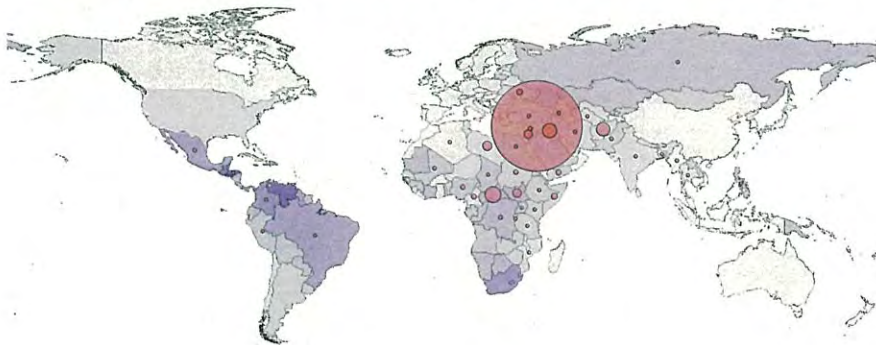
- 目標：持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 目標16は、ほかのどの目標よりも持続可能な開発に野心的である
 - 目標16は、開発目標全体を「実現可能にするもの」

紛争は人間開発にとって最大の脅威であり続ける

潘基文（前国連事務総長）

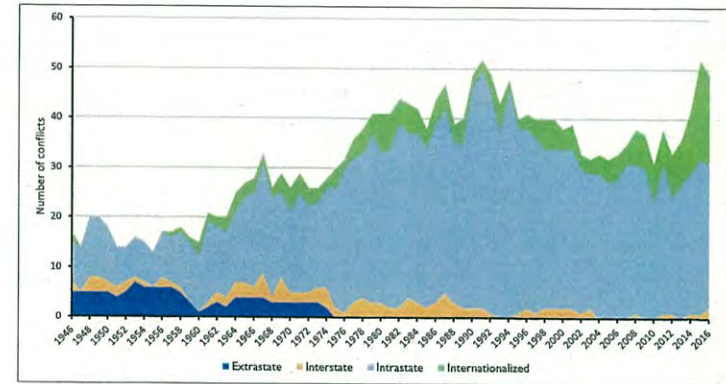
SDG 16

- SDG 16.1: あらゆる場所において、すべての形態の暴力および暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる



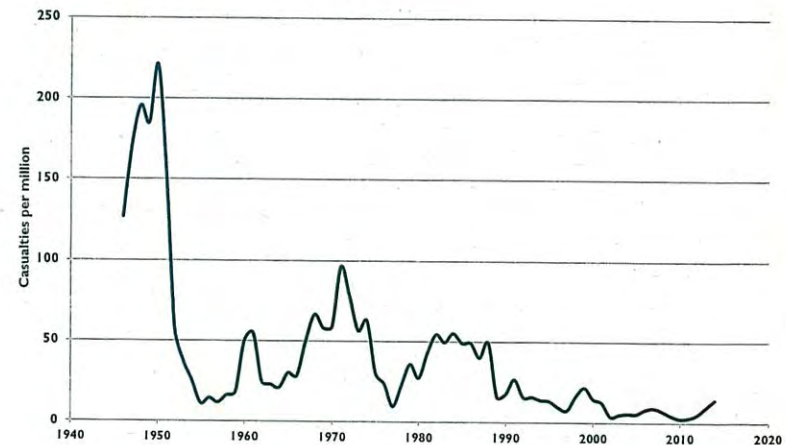
武力紛争：1946年-2016年

- 武力紛争とは、政府および／または領域に関わる対立で、二つの勢力が武力を使用し、その内少なくとも一方が国家であり、25名以上の戦闘に伴う死者が出た場合と定義される。

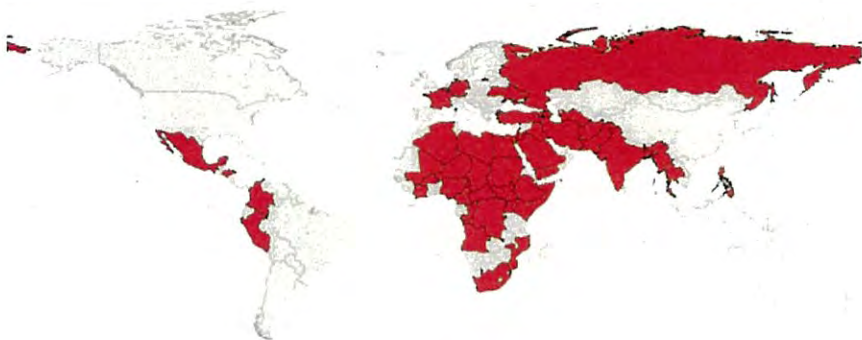


戦争の減少：戦闘関連死 1946年-2016年

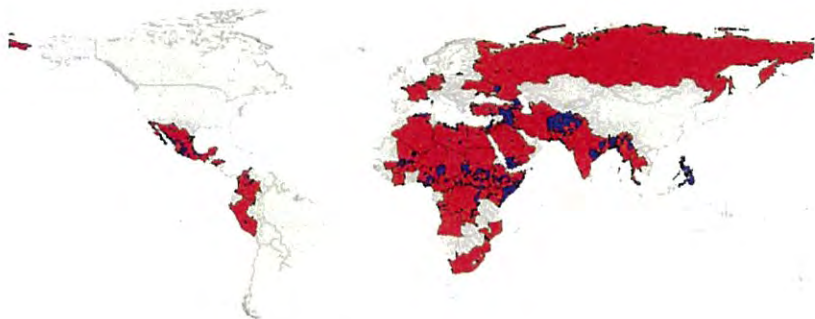
- 武力紛争の数は今なお多いが、
- 戦闘死は劇的に減少した



2016年現在も紛争中の国



2016年現在も紛争が続く国の紛争地帯

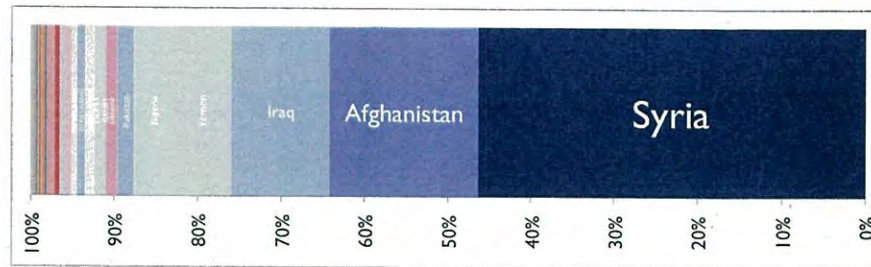


人口10万人当たりの戦闘関連死 (2016年)

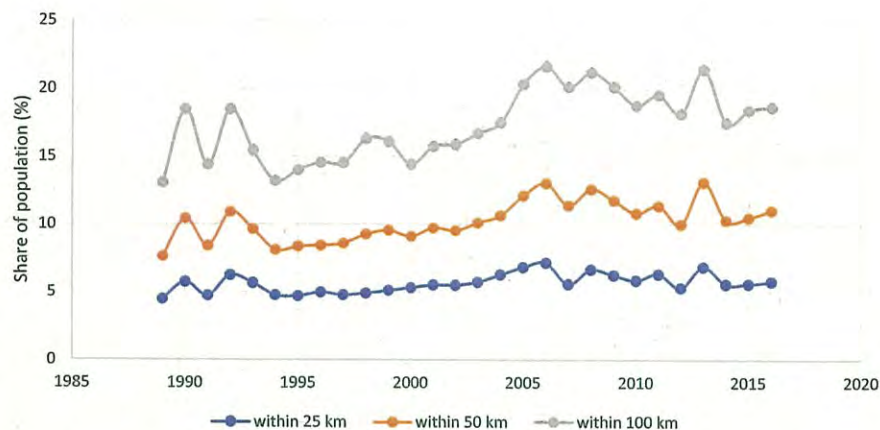


戦闘関連死

- 多くの武力紛争があるが、戦闘死が多数にのぼる国はわずか



世界で紛争地に住む人々の割合



紛争の再発 — 戦争が戦争を生む

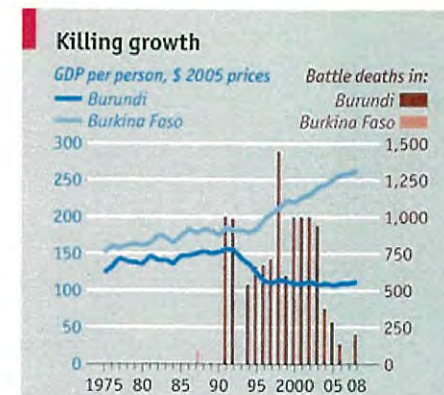
- 1945年以降に起きた259の武力紛争のうち、159は再発で、100は新しい集団または対立が関わっている
- 言い換えれば、全武力紛争の60%は再発している
- 135カ国が1946年以降紛争の再発を経験している
- 1990年代半ば以降、ほとんどの武力紛争は再発だった
- つまり、135カ国は武力紛争を経験し、または紛争を経験する可能性が高い
- 平均して、紛争後の和平は、わずか7年しか続かない

内戦は開発と逆である

- 悪循環
低レベルの開発 → 紛争 → 開発の浸食 → 紛争
- 紛争は、開発にとって最大の障害である
- 中強度紛争（2500名の直接的戦闘関連死）
 - ① 栄養不足の人口の割合を3.3%増加させる
—人口1000万人の国で30万人
 - ② 市民の平均余命を1年短くする
 - ③ 幼児死亡率を10%増加させる（比率1：1）
 - ④ 5年間にわたって2500名の直接死に加えて、新生児5000人の間接死
 - ⑤ 加えて、人口の1.8%は、安全な水を得る機会を奪われる

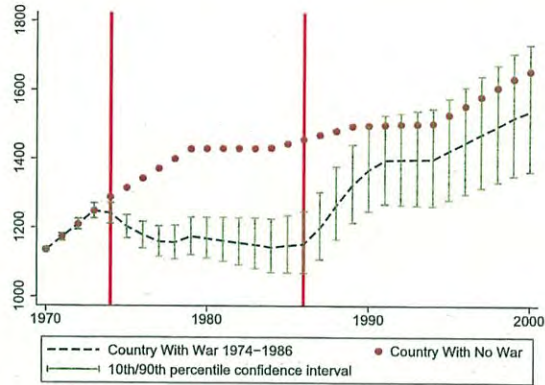
経済開発と紛争

- ブルンジやブルキナファソは1990年代初め、同程度の経済レベルであった
- ブルンジの紛争後、ブルキナファソは、（1人当たり）ほぼ倍の豊かさである。



紛争の経済的影響

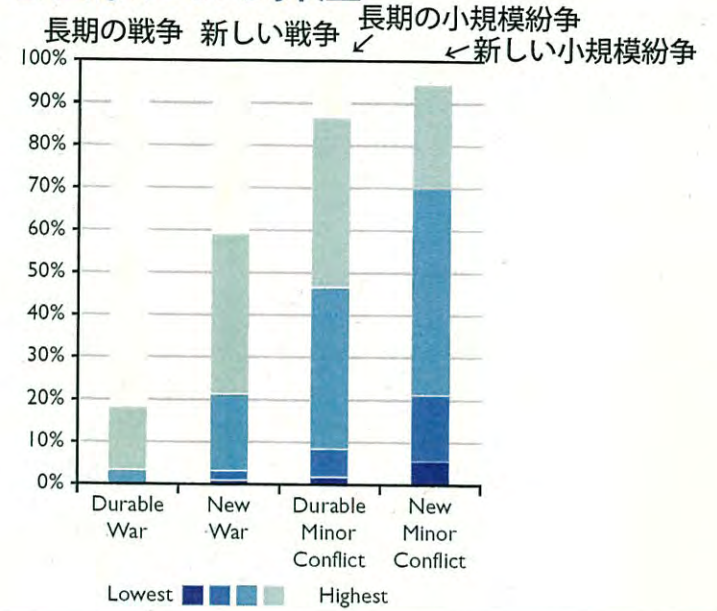
- 紛争は国家を成長軌道から外してしまう
- 多くの国では、紛争後、その影響が長引く



紛争の政治的影響

- 紛争、国家の脆弱性、ガバナンスは密接に関連している
 - 紛争は (いかなる種類の) 体制変換であっても、その直後に起きる可能性が高い
 - しかし、民主的な体制変換は、長期的には紛争を起こしにくくする
 - 脆弱国家に比べて、よく統治された国家では紛争がずっと再発しにくくなる
 - 紛争中は抑圧が劇的に増加し、強い抑圧は紛争が終焉した後も長く続く

武力紛争と国家による抑圧



国家の脆弱性

国家の脆弱性とは何か？

- 経済的崩壊
- 環境の悪化
- 汚職の蔓延
- 政治的危機や不安定
- 武力紛争
- 個人的や社会的な暴力の段階的拡大

脆弱性、紛争と開発

- 「脆弱性」の厳密な意味は、未だ（非常に）
- 議論のあるところである
- しかし脆弱国家は、（観察可能な）紛争状態にあるか、（測定可能な）紛争発生可能性が高くなっている
- 脆弱国家では政府、法の支配、アカウンタビリティが欠如している
- 紛争同様に、脆弱性は政治的プロセスの帰結である
- より単純化して言えば、誰かが国家が脆弱であることを望んでいるのである
- これこそは、脆弱国家における開発の最も基本的な側面である（SDG16!）

国際社会には何ができるのか？

- 長期的には、経済成長が武力紛争の危険性を軽減する
- しかし、短期的に国際社会は何ができるだろうか？
- 武力紛争の再発を食い止めるために努力すること

平和維持（PKO）

- ピースキーパーが派遣された紛争では、長期的平和を見る可能性が倍になる
- 紛争の再発可能性は70%低減する
- PKOは紛争が伝染する可能性も劇的に軽減する
- そして紛争がエスカレートすることを軽減する
- シエラレオネにおける平和維持活動は4年間続き、合計4900万米ドルの費用がかかった。戦争の費用は1年間に推定30億ドルである
- 言い換えれば、平和維持活動は極度に費用効果が高いと言える

包括的な平和構築

- エリートによる交渉は不安定になる傾向がある
- 市民社会、特に女性団体を含む、広く包摂的な協定は、平和を促す
 - 国連安保理決議1325
- 和平合意の規定は重要である
 - そもそも戦闘を招いた問題に対応すべき
 - 戦闘によって引き起こされた憤懣に対応すべき

長期的政策

- 政治改革は、根底にある憤懣を解決するために必要である
- 統治改革は、より効率的で衡平な国家を生み出すために必要である
- 国家による抑圧を制限する市民権保護は、紛争再発の危険性を低減する効果的な方法である



平和と公正を
すべての人に

ご清聴ありがとうございました。



The Development Consequences of Civil War: The Need for Sustainable Development Goal 16

Scott Gates
Peace Research Institute Oslo



February 24, 2018
Hiroshima Prefecture



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



SDG 16

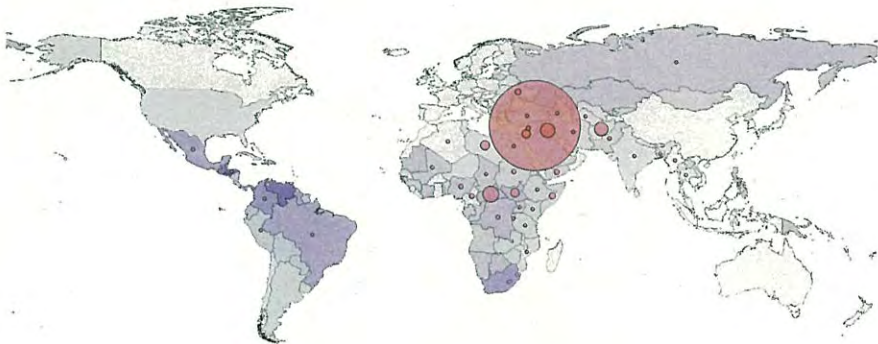
- Goal: Promote peaceful and inclusive societies for sustainable development, provide access to justice for all and build effective, accountable and inclusive institutions at all levels.
- SDG 16 encapsulates the ambition of the sustainable development agenda more than any other goal
- SDG 16 is 'the enabler' of the entire development agenda

Conflicts remain the biggest threat to human development

(Ban ki-Moon, (former) Secretary General, the United Nations)

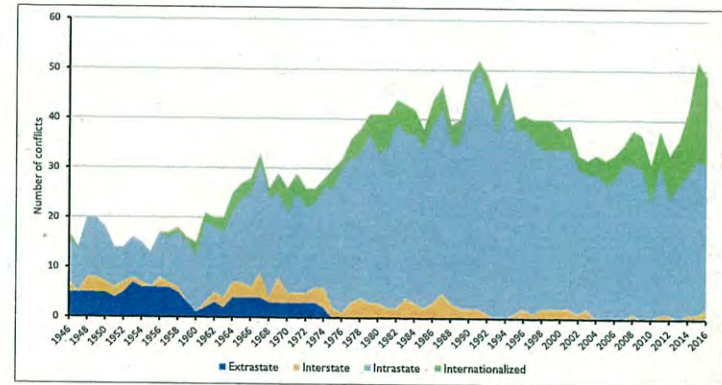
SDG 16

- SDG 16.1: 'Significantly reduce all forms of violence and related death rates everywhere'.



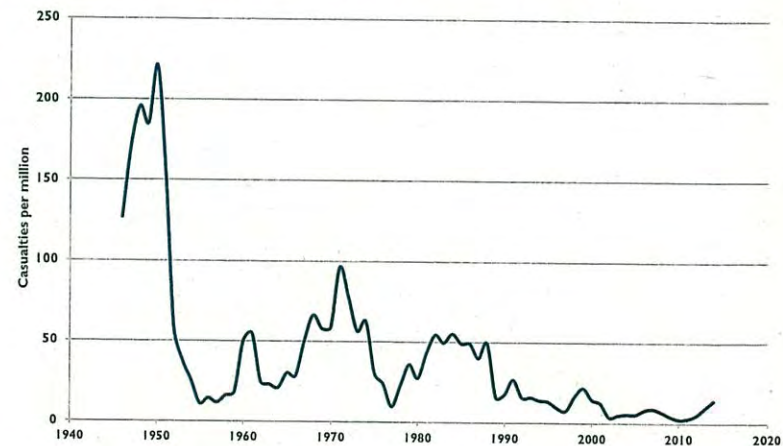
Armed conflicts: 1946 – 2016

- An armed conflict is defined as: a contested incompatibility which concerns government and/or territory where the use of armed force between two parties, of which at least one is the government of a state, results in at least 25 battle-related deaths.

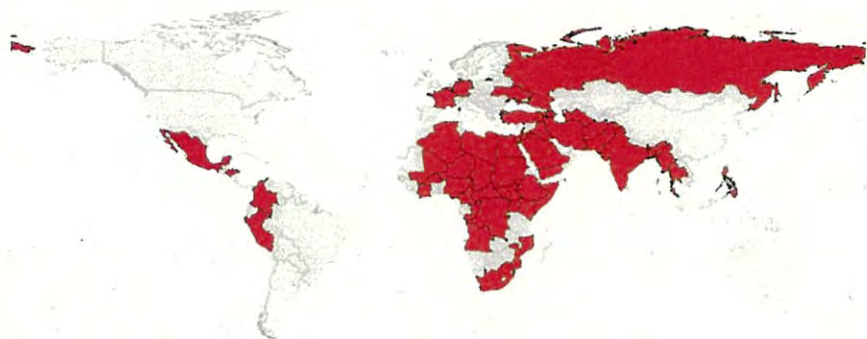


The waning of war: Battle related deaths, 1946 – 2016

- While the number of armed conflicts remains high,
- battle deaths have decreased dramatically

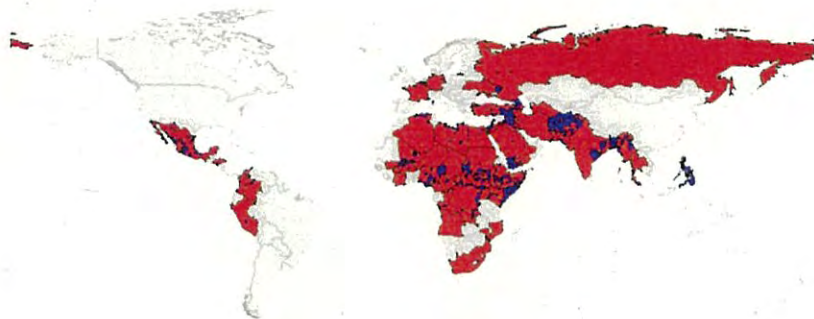


Countries with on-going conflict in 2016



Navigation icons: back, forward, search, etc.

Conflict areas in countries with on-going conflict in 2016



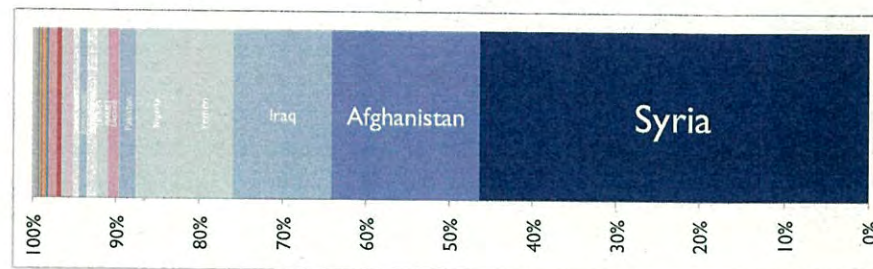
Battle-related deaths per 100,000 population in 2016



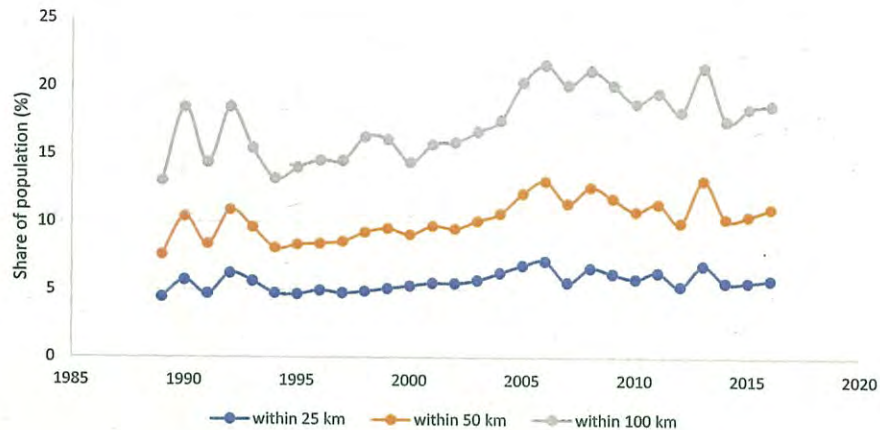
Navigation icons: back, forward, search, etc.

Battle-related deaths

- There are many armed conflicts, but only a few have many battle deaths



Share of World's Population Living in Conflict Areas



Conflict Recurrence – War begets War

- Of the 259 armed conflicts since 1945: 159 recurred and 100 involved a new group or incompatibility
- In other words, 60% of all armed conflicts recur
- 135 different countries have experienced conflict recurrence since 1946.
- Since the mid 1990s, most conflict onsets have been recurrences
- That means: 135 countries are experiencing armed conflict or are highly likely to experience conflict
- On average, post-conflict peace lasts only seven years

Civil War is Development in Reverse

- Vicious Cycle
low level of development → conflict → erodes development → conflict
- Conflict remains the largest obstacle to development
- A conflict of median severity (2,500 direct battle-related deaths):
 - 1 Increases undernourished proportion of population by 3.3% – 300,000 people in a country of 10,000,000
 - 2 Removes a year from the expected life of every citizen
 - 3 Leads to a 10% increase in infant mortality rates (1:1 ratio)
 - 4 Over a five-year period, the 2,500 direct deaths are accompanied by the deaths of 5,000 newborn indirect deaths
 - 5 Deprives an additional 1.8% of the population from access to safe water

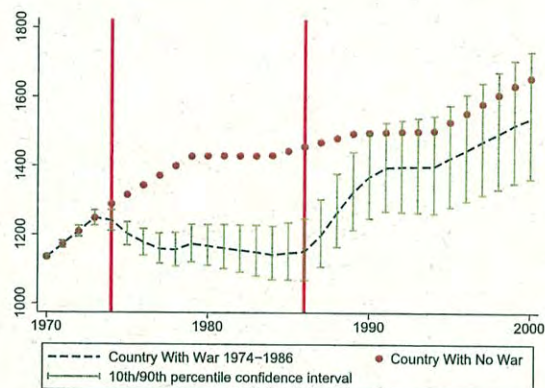
Economic development and conflict

- Burundi and Burkina Faso were at similar levels of economic development in early 90s
- After conflict in Burundi, Burkina Faso is now about twice as rich (per capita)

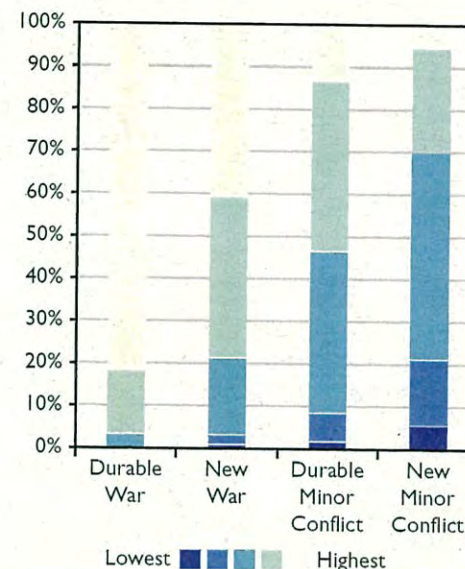


The Economic Consequences of Conflict

- Conflict pushes a country off a growth path
- For most countries, the effect lingers long after conflict



Armed Conflict and State Repression



Political Consequences of Conflict

- Conflict, state fragility, and governance are closely associated
 - Conflict is much more likely to occur in the immediate aftermath of (any type of) regime change
 - But democratic regime change leads to less conflict in the long-run
 - Conflict recurrence is much less likely to occur in well governed states – in contrast to fragile states
 - Repression increases dramatically during conflict, elevated levels of repression persist long after conflict ends

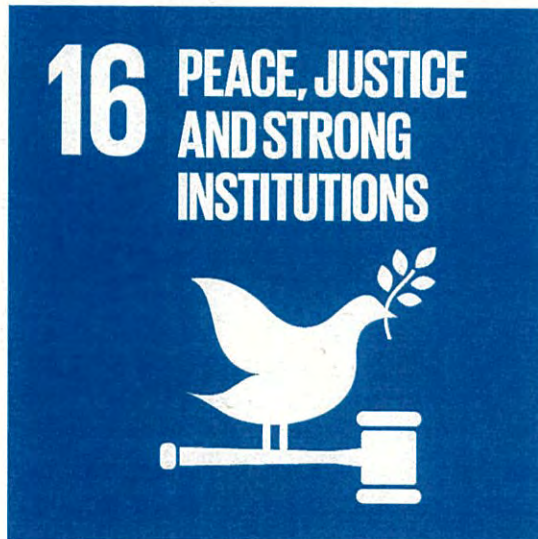
State Fragility

What is state fragility?

- Economic collapse
- Environmental degradation
- Widespread corruption
- Political crisis and instability
- Armed conflict
- Escalation of private and social violence

Long term policies

- Political reforms are needed to address underlying grievances
- Governance reforms are needed to produce more efficient and equitable states
- Civil right protections limiting repression by the state are an effective way to reduce the risk of conflict recurrence



Thank you for your attention